

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FPG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、同研究所の調査研究レポートのなかから、「針尾無線塔保存会」を紹介します。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



ながさき経済web画面

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。



針尾無線塔保存会

長崎経済研究所 調査研究部 泉 猛

当会について

「針尾無線塔保存会」(会長 田平 清男氏、会員100人)は2013

年3月6日、旧佐世保無線電信所(針尾送信所)が国の重要文化財に指定されたことをきっかけに、戦争の記憶を語りつぎ平和について考えてもらおうと、地元・佐世保市の名倉地区と小鯛地区に在住する有志ら100人が手弁当で立ち上げた会です。

針尾送信所

●施設の概要

針尾送信所は、旧日本海軍が1918年から4年の歳月をかけて建設した針尾島にある送信施設です。日露戦争を機に、無線連絡体制の整備が必要となったことから、総工費155万円(現在の価値で250億円相当)を費やし建設されました。

44,285・74㎡の広大な敷

地の中に、無線塔3基のほか、電信室1棟、油庫1棟、附・見張所1基などがあります。

この送信所は、国内に現存する唯一の長波無線通信施設として高い歴史的価値が認められており、土木史における国内最初期のコンクリート建造物です。さらに、技術史では、大正時代における国内最高水準のコンクリート技術を示すものとして高く評価されています。

このうち、無線塔は現存する自立式の電波塔として日本一を誇ります。この3基の無線塔は、いずれも高さ約136m、周囲38m、塔の底面積115㎡あり、300mの間隔を置いて、正三角形に配置されています。

●施設の歴史

この3基の無線塔は完成当時電線で結ばれていました。太平洋戦争の口火を切った真珠湾攻撃の暗号電文「ニイタカヤマノボレ1208」の信号は、ここで

中継・送信されたと言われています。

当送信所は、終戦後、海上自衛隊および海上保安庁の無線施設として運用されていましたが、1997年にその役割を終えています。その後、2013年の重要文化財(建造物)の指定を機に、同年6月から一般公開が始まりました。そして、2016年には日本遺産「鎮守府横須賀・呉・佐世保・舞鶴く日本近代化の躍動を体感できるまち」を構成する文化財の一つにもなっています。

2022年5月に放送されたNHKの土曜ドラマ「17才の帝国」では、無線塔や電信室がドラマの中



針尾送信所3号塔 筆者撮影



無線塔内部の様子 筆者撮影

において重要な存在として登場しました。

針尾無線塔保存会の活動

田平会長によると、「針尾送信所の来訪者数は、2024年はおよそ39,000人でした。県内だけではなく、遠くは関西や関東などからも足を運んでもらっています。また、地元・佐世保市や西海市内の小中学校の児童・生徒さんたちや、全国各地の学校から訪れる修学旅行生が、歴史を学ぶ授業の一環として当所や浦頭引揚記念資料館、無窮洞(※)などを訪れて関係者から当時の話を聞くなどしており、平和を考える良い機会を与える場ともなっています」

と語っています。

こうした観点から、これからさらに多くの方に訪れてもらえるように、当会では次の3つに取り組んでいます。

① 施設の維持・管理

施設内を毎日2名体制で見回り、来訪者が安心・安全に過ごすことができるよう維持・管理に努めています。

② 訪問者へのガイド

当会にはガイドスタッフが4名在籍しています。来訪者にこの送信所の説明をすることで、文献では得られない当時の様子を理解してもらえるようにしています。

③ 清掃活動

敷地内の草刈りや清掃活動を定期的にを行い、訪問者が気持ちよく過ごしてもらえるようにしています。

田平会長は、「この針尾送信所が戦時中に国を守り、国民の命を守ってきました。一時は、この施設を取り

壊す動きもありましたが、日露戦争後、旧日本海軍が建設した「佐世保無線電信所(針尾送信所)」、「東京無線電信所船橋送信所(行田無線)」、「台湾の「鳳山無線電信所」のうち、無線塔が現存しているのはここ針尾だけです。貴重な建造物が地元に残っていることを誇りに思いながら、是非、平和について考えてもらいたいし、これから次世代を担う子どもたちにも語りついで行きたいです」と語ります。

(※)無窮洞：太平洋戦争末期に手掘りで掘られた防空壕



電信室 筆者撮影

見学時間：①9時～12時、②13時～16時(最終受付は15時30分まで)

駐車場：普通車30台、大型バス2台

- * 団体での見学は、駐車場やガイドの調整のため事前の電話連絡が必要です。
また、個人でもガイドが必要な方は事前に連絡して下さい。
- * 原則、見学日の10日前までに針尾無線塔保存会へご連絡下さい。

針尾無線塔保存会 電話番号0956-58-2718